

令和5年度森川特別支援学校 本校,院内学級自己評価 集計・考察

本校教員 回答率 100% 16人

院内学級 回答率 100% 16人

令和5年度の学校評価は、本校教員、院内学級教員、事務現業部、本校保護者、中学部高等部生徒に実施した。回答率は100%であった。これは教職員が本校の教育や学校運営等に関して積極的に関わろうとする姿勢のあらわれであり、日々の授業実践を生徒に積極的に向き合い取り組んでいるためだと考える。評価内容に関して、ほとんどの評価項目で「A達成できた」「Bほぼ達成できた」の良い評価をつけ、概ね肯定的な回答を得ている。以下、「Cやや改善が必要」「D改善が必要」を合わせて2人以上評価を付けている評価項目に対して考察する。

【教育計画】 中学部No.6、高等部No.2・6、院内学級No.3・4・5

2 児童生徒の実態の応じた適切な教育課程が編成されている。

3 個別の教育支援計画は、本人、保護者の願いを踏まえ、適切な教育的ニーズが設定されている。

4 個別の教育支援計画が、日々の教育実践で活用されている。

5 年間指導計画は、学部内・学部間で一貫・継続した指導ができるよう系統的に作成されている。

6 年間指導計画は学部内・学部間で一貫・継続した指導ができるよう系統的に作成されている。

・院内学級においては今年度から個別の支援計画の作成を見送り、個別の教育支援計画の盛り込まれている『教育(学習面)』の観点に目標・手立てを示すことで置き換えている。また、院内学級の教育は原籍校の補完的な立場であるため、原籍校との個別の教育支援計画をすりあわせることがなかなか難しい状況である。病気療養を中心とした授業実施が難しいなか、活動内容、評価までの取組を担当児童生徒に関してイメージの共有化が図られるよう、職員間で共有していきたい。そのためのツールとして、児童生徒の実態に合わせた教育計画の作成、指導内容方法の工夫改善をし、個別の教育支援計画をフルの活用する様に意識していきたい。

・それぞれの学部や教科会などで職員が話しやすい体制づくりや雰囲気づくりを引き続き行い、課題の共有及び対応の共通理解を図ることが重要である。

【教科等の指導】 高等部No.9・10

9 教材の精選、授業時数の確保等、学習保障への工夫がなされている。

10 実践的体験的な活動を通して、児童生徒が主体的に学習活動に取り組めるよう工夫している。

・森川特支の教育課程では、小学校中学校高校に準ずる教育課程で編成されており(I類型)、各教科の目標等において、学習指導要領に示す内容が設定されている。各授業において、目的・目標や活動内容の意識的な明示、また授業における児童生徒自身の学びについての気づき、振り返り、さらに評価までをイメージした取組を職員間で共有していきたい。各教科で指導と評価の一体化について共有し、自立活動の関連性を踏まえた指導を実施していきたい。

【自立活動】 院内学級No.11

11 個々の児童生徒の実態、目標の共有、指導体制の構築等において、職員の協働・連携が図られている

自立活動はその内容の6区分27領域から抽出して指導にあたる。院内学級の児童生徒については少ない時間だからこそ、実態把握からより具体的な指導内容を設定し、それぞれの児童生徒に合わせて焦点を絞った指導ができるように取り組んでいきたい。

【道徳教育】 院内学級No.13

14 道徳教育の全体計画を作成し、職員相互の共通理解や指導体制の連携を図っている

・本校では道徳教育全体計画が作成し、各教科を含めた学校全体の教育活動において道徳科の観点を踏まえた指導を行うものとされている。教員間で道徳教育全体計画を見直す機会を作り、具体的な指導内容を共有できるようにする。

本校では、精神疾患で長期欠席等の児童生徒がおり計画的な授業実施が難しいなか、また、院内学級では医療の進歩で入院の期間が短くなるなか、活動内容、評価までをイメージした取組を職員間で共有していきたい。児童生徒の実態に即した生徒が興味・関心を持てるような指導の工夫を検討していく。

【生徒支援】 院内学級No.19

19 児童生徒会の活動が充実している。

・今年度は小学部児童の在籍が0人。中学部在籍が7人。高等部在籍が6人の現状である。生徒会を運営するには、人数が厳しい現状で今までの生徒会運営の仕方を考えないといけない時期にきている。児童生徒全員が生徒会運営に関わる意識の醸成が必要ではないかと考える。

【安全指導】 院内学級No.21

21 災害時及び緊急時等に適切な対応ができるよう体制が整っている。

・今年度、災害時に対応する物資の水をPTA会費で購入することができた。この水は、毎年度最後に生徒職員に配布し、新年度に新しい水を購入することで災害時に対応することとしている。災害時に必要な物資の量は、3日分といわれている。今後飲料水のみではなく、食料品の購入を検討していくようPTA役員会に働きかけていく必要がある。

【施設設備等】 院内学級No.31・32

31 教育活動のため施設・設備は整備されている。

32 教育活動のため教材・教具や図書等の充実が図られている。

・校舎の老朽化に伴う劣化も見られるが、定期的に各部署で安全点検を行い、危険箇所や修繕に対しては事務部と連携して早急に対応している。今後も引き続き、危険箇所の早期発見・修繕を行う等、教育環境整備の充実に努める。また児童生徒の実態に応じた施設設備の充実に対する要請は、引き続き取り組んでいきたい。

・教材教具に関しては、事務部のおかげで充実しているが、今後も本校児童生徒の学習環境の充実を図るため、計画的に教材教具を購入することが必要である。

院内学級では授業を実践するなかでICT活用が不可欠である。また、本校ではコロナ禍で意識の高まったICTの活用(リモート授業や会議等)が、今後一層の力を発揮すること期待される。

【人権教育】 中学部No.34

34 児童生徒の対する不適切な言動や不適切な指導等の実態把握に努め、早期発見早期対応に努めているか。

・児童生徒の関わりの中で、不適切な言動が見受けられたらその場で対応することが必要。事後になっての指導は、生徒が思い返すことが難しくなり指導が行き届かない場合がある。

・人権教育は、自らの大切さや他の人を大切にするを児童生徒自身が実感できるようにすることが大切で、学級や教育活動全体をとって指導していくことが必要である。そのため教職員全体で意識し、指導方法を考え教育活動に取り組む姿勢が肝要である。

※ご意見その他お気づきの点がありましたら、記入をお願いします。(特に教員の多忙化を防ぐために取り組んでいること、または学校として取り組んで欲しいこと)

・校内研修で仕事の効率化のグループができて良かった。また、研修を通して動くことができて良かった。

・teams の活用がしやすくなり、職員間の連絡が円滑になったように思います。

・KUBI は2台になったおかげで原籍と繋がること増えました。クロムを使っでの交流もしやすくなっています。

・医教連携会を持ったことでこども医療では退院手続きに関する資料を早く手に入るようになりました。また、冷蔵庫の配備もありがとうございました。・コロナ禍があげてきたとはいえ院内では、未だ感染症に対する警戒感は続いています。校長の早めの対策(対応マニュアル)は助かります。有難うございました。

・分掌の編成等により多忙と感じる職員が減ると良いなと思います。分掌の分割合体等もあるかとおもいますが、同一分掌を継続することでの負担減もあると思います。

・業務の精選

・事務作業が多い。事務的作業が大切なのはわかるが、授業(教育活動とのギャップ)が大きい。

(支出伺いを出す前に商品の値段を調べ、支出伺いをだし、押印をもらい係からお金

を受け取り、商品を購入データ入力コピーとり)

・PTA活動は生徒保護者が減少する中で、一人の保護者の負担、PTA系の先生の負担が大きくなっていないか。PTAの存続自体を考える時期だと思う。

・発達障害の生徒が本校は多いので、障害のある生徒の理解と認知アプローチ等を教師が学ぶと生徒の問題行動も減るのではないか。

・事後の指導を多いような気がする。

29 環境美化…… 身体への負担が多い。

27 交流及び共同学習……ニーズがない。

8教科等の指導……視覚優位な生徒多いが視覚支援が少ない。

・自己評価表で所属している学部で自分に対する評価なのか学部全体の評価なのか、所属している学部に対する評価なのか評価の方法を考えています。

・評価する側の立ち位置がどこだろうと考えました。